



奥羽曹洞宗本山・正法寺の開基

無底良韶

無底良韶は、南北朝時代の一三四八年（貞和四年）に、今の奥州

市水沢区黒石町にある、正法寺を開いた人である。寺の名前は、正

しくは、奥羽曹洞宗本山、大梅粘華山円通正法寺と言う。正法

寺は、東北地方では初めての曹洞宗寺院であった。また、一三五

〇年（観応元年）には、日本曹洞宗第三の本寺（曹洞宗の様々な

寺を統括する寺院）の格式を得て、奥羽の出世道場となった。

無底は、一三一二年（正和元年）、能登国賀嶋郡酒井保（現・石

川県鹿島郡）の藤原氏の出で、酒井十郎章長（法名西願）の五世で

あった。二十二歳（二十九歳の説もある）の時、峨山紹碩の弟子と

なり、そのもとで学んだ。

一三四二年（康永元年）、無底は、師の峨山紹碩から傳法（仏法

を授け伝えること）を受け、日本曹洞宗の開祖（日本曹洞宗を開い

た人）の、道元禪師が中国から持ち帰り、峨山紹碩まで伝えられた、

六祖伝衣の曹洞重宝の袈裟「僧伽梨」（代々受け継がれてきた曹洞

宗のとても大切な僧侶の着る衣服）を授けられている。このことは、
峨山門派を無底が継承することを表している。

そして、無底は、一三四五年（康永四年）新しい寺をつくること

を祈願し、翌年、三十四歳の時に、奥州黒石に下り、庵を結び（大

寺のわきに小さな家を建て、そこに住むこと）、一山を起すこと

を念じた。そして、正法寺の建設を発願し、一三四八年（貞和四年）

に正法寺を開いた。

無底の高い信仰は、早くも中央に知られ、一三五〇年（観応元年）

五月六日、崇光天皇から綸旨（天皇からの言葉）が下り、「出羽奥

州領国（今の山形・秋田・福島・宮城・岩手・青森）における曹洞

の第三の本寺」として、正法寺住職に紫衣（紫の僧衣で、天皇が高

い位の僧におくるもの）の着用が許された。

しかし、無底は健康に恵まれず、正法寺が開かれてから十三年後

の一三六一年（康安元年）六月十四日、跡を継ぐ門弟がいまま

に正法寺で亡くなってしまった。四十九歳の時と伝えられている。

無底の師であり、総持寺（横浜市鶴見区にある曹洞宗の大本山）

の住職となっていた峨山紹碩はこれを聞いて非常に悲しみ、大器を

選んで正法寺を継がせなければならぬと決意し、弟子の月泉良印

と道叟道愛の二人を正法寺に派遣して、その名称を継がせることと

なった。二人は、ともに奥羽出身であった。一三六二年（康安二年）には峨山紹碩から、「正法寺は末代に至るまで、出羽奥州領国の曹洞の本寺たるべし」とする書状が月泉良印に与えられている。これは、正法寺が曹洞宗本寺の永平寺（福井県にある曹洞宗の大本山）、総持寺に並び東北地方の本寺（本山）であることを示したものであった。

無底の早い死は、開かれてから間もない正法寺にとってはもちろん、庶民にとっても心のよりどころを失い、大きな失望となった。無底が峨山の第一の弟子であり、その名称を継ぐべき第一の候補者でありながら、あえて、当時へき地と言われる奥州に一山を開く決意を抱いた真意は、正法寺の『古本住山記』では、次のように伝えられている。

「奥羽の地では、仏法が広まり、定着し難い。そこで、師から伝えられてきた仏法の様々な法財を奥羽の地に納め、三国相伝の仏舎利によって魔を防ぎ、正法眼蔵（日本曹洞宗の開祖である道元が伝えた、曹洞宗の大切な教え）を正しく伝えるために、寺を開き、正法寺と名付けた。」

また、『月泉禪師行状記』によると、無底が正法寺を開いた時、師の峨山に手紙を送り、正法寺に招こうとしたことがあった。たと

え正法寺が勅許（天皇による許可）によって奥羽二州の曹洞宗の総本山となったとは言っても、総持寺を開いた峨山は無底の師であるため、無底が峨山を正法寺に迎えたことよって開山として、師と仰ごうとしたためである。しかし、師の峨山は、師弟の問題には全くふれずに、「正法寺は総持寺と何一つ変わらず、全く対等であり、卑下することはない。早く正法寺に入って開山するべきである。」と説いた。これは、無底が師から全く対等の寺の開山と言われるような業績を示したということを意味している。そして、無底のような素晴らしい僧に開かれた正法寺を人々は敬い、深い信仰をもつようになった。

無底は、正法寺の周辺に柏木を植樹している。何のために植樹していたのかは明らかではなかった。しかし、一四〇六年（応永十三年）の大飢饉で、人民が多く餓死したとき、正法寺では飢餓の人々を救済し、翌年の春に村に帰る際に、柏の実を植えさせていることから、無底が柏木を植樹したのも、凶作に備えるためではなかったかと思われる。また、無底が、まだ安定しない稲作技術を見て、万が一に備えるために、柏木を植林したとも見ることができ。これは、岩手における最も古い植林事業であり、しかも、凶作対策を目的としたものとするれば、宗教人としての思いからうまれたものと

して、注目すべきだと考えられている。

現在、無底が残した正法寺は、本山としての格は失ってしまいましたが、今でも東北地方で曹洞宗を信仰する人々の心の拠り所となっている。

*無底良韶むていりょうしょうについてもっと知りたいことがある人は、無底良韶むていりょうしょうが開いた正法寺（電話0197-2614041）を訪ねてみてください。
さい。

*参考文献

『「歴史と観光」みずさわ浪漫』 水沢市・(社)水沢観光協会

『岩手の先人100人』 岩手日報社



正法寺（水沢区）